中国語略語辞典

那須雅之 編著

東方書店

中国語略語辞典

那須雅之 編著

江苏工业学院图书馆
藏书章

東方書店

編著者略歴
那須雅之（なす　まさゆき）
1960年東京生まれ。
1984年東洋大学文学部中国哲学文学科卒業。
1984年より87年まで北京師範大学に留学。
現在，東洋大学 上智大学 講師。

中国語略語辞典

1991年10月20日　初版第1刷発行

編著者●那須雅之
発行者●安井正幸
発行所●株式会社 東 方 書 店
東京都千代田区神田神保町1－3　〒101
電話(03)3294-1001　振替東京4-1001
営業電話(03)3937-0300
データ処理●アイ・エヌ・エス株式会社
印　刷●倉敷印刷株式会社
製　本●協栄製本株式会社

定価はカバーに表示してあります。

©1991 那須雅之　Printed in Japan
ISBN 4-497-91321-X　C3587

乱丁・落丁本はお取替えいたします。直接小社までお送りください。

本書を無断で複写（コピー）することは著作権法上認められている場合を除き、禁じられています。小社は、著者から複写（コピー）に係わる権利の委託を受けていますので、複写される場合は必ず小社宛ご連絡ください。

薦　辞

本書の著者那須雅之君は東洋大学文学部中国哲学文学科を卒業した新進である。在学中から中国語文の理論的研究に特別の関心を抱き、しばしば後生可畏の感を深くさせられて来た。とくに語彙研究に就いては、独特の系統的分析の才を発揮し、今まで諸方で見逃されてきた問題にも着目し、新しい観点から疑問を提起するのが那須君の作業の一つの特徴となって来た。研究への情熱は、卒業後取るものも取りあえず、北京へ行って、現地の人々の言語生活に触れてみたいと言う願望につながり、まっしぐらに北京師範大学留学となった。この時は、日本でもう少し研鑽すべきか、直ぐにも中国に行くべきかに就いて、君もかなり迷ったらしいが、とにかく現地での観察をしたいとの願いが勝り、北京行きとなってしまった。これは大きな冒険ではあったが、結果を見るに、やはりこの留学は一つの成功であった。足掛け四年に亙る実地での研鑽を経て、大きな成果をお土産にして帰って来たが、今回の辞典の編集著作は其の成果の一端である。著者那須君の中国語の学習、研究の過程を日頃から身近に眺めて来た私には、この成果を眼にして些かの感慨がある。

著者は有志者事竟成の諺そのままに、現代中国語における略語を含む比較的新しい語彙の形成過程の原理的検討に没頭し、これまでに無かった一つの課題を自ら設定し、其の解明に努めた。その内容に就いては本書に示されているので、ここでは述べない。君が若い情熱をこめて考えを重ねた上で、体系立てた現代語彙の生成過程に就いての原理的研究は、私の知る限りではわが国で初めてのものだと思う。

日常、現代中国語文を読む者にとって、“脱产”“赶超”“党风”などは全く平凡極まりない語彙であり、何らの新味もなく、読み過ごされがちであるが、実はこれらの語彙の形成にはそれなりの歴史的背景が秘められて居り、それ故にそれらの語彙は現代中国の政治、経済、社会、文化はじめ諸々の事象の演変を映し出した鏡に他ならない。また“疏解”“社管会”“商调”に至っては最初から判る人はまず居ない。それを調べる工具書も多分なかなか見つかるまい。それを調べてはっきり理解した時、その人は同時にその語彙を産み出した社会背景に就いても相当の勉強をしたことになる筈である。この様なことを考えると、これらの語彙の系統的研究は、中国語文研究者、学習者はもとより、広く中国問題研究者にとっても甚だ大切な意味を持っていることが判ろう。語彙に無関心のままで居るならば、しばらくたてば、人々は語彙の結果的な意味を知るだけで、その言葉の背後

に秘められた歴史背景など無視する時代が来るだろう。その時は語彙のニュアンスとか微妙な違いなどもつかみ難くなってしまうに違いない。それ故、ある種の語彙の原理に就いての正確な認識が、中国語の文章を読む人にとって重要な役割を果たすことになる。一般の辞書にも出ていない現代語彙のかなりの部分が、この辞典によって調べられることになるのは喜ばしいことである。またこの辞典にある様な理解のし方に基づいて正しく語義を理解すれば、単に読むだけでなく、書くためにもより一層助けになることと思う。私はまずこの様な観点からこの辞典を推奨したい。

著者は最新の文法理論に関する研究成果を広く取り入れ、それらを最新の手法、技術により系統立て、その上に独自の理論を展開し、今日の比較的新しい中国語語彙の来源、形成過程を解明し、従ってその語彙の正確な意味を明らかにしている。またこの作業は、中国語の形態素や造語法に就いての考え方の上でも斬新な資料を提供し、語文研究のために貢献するところが少なくない。各項目を見ると、語彙の応用例の提示が豊富で、語彙に就いてのさまざまな場面での用い方を適切な実例で示している。読む人はこれらにより、現代中国語文の活きた側画に触れることが出来るものと思う。中国語の文章を日本語に移す時、人々は訳語をどうするかに就いて、微妙な問題に出会うことがあるが、この辞典で解明されている様な背後の事情を知ると知らないでは、翻訳全体の仕上がり具合に大きな差が生ずることになろう。時にはこれを「語感」の理解の程度として片付けることもあるが、しかし「語感」なるものも経験とカンにのみ依存すべきものではあるまい、出来るかぎり論理的な把握によって確かなものにしたいものである。その様な立場から言えば、この辞典の個々の語彙の訳語は、文字の背後にある事情をも考慮した上で、実用性を配慮して工夫されているから、実務者に取っては実践的に即時役立つものと考える。

我々は日常たくさんの中国語の文章を読むうちに、とかく慣れて来がちになることがないだろうか、慣れてしまうと全てが当たり前のこととなり、疑問を感ずる新鮮な感覚が鈍くなって来るものであるが、この辞典にある語彙を見るならば、かなりの経験者でも、ふと見る語彙を通じて新たな驚きを覚えるかも知れない。その意味では、本書は本来工具書ではあるが、結構楽しい読物でもある。

最後に重ねて申し述べたい。本書は若き研究者が情熱と努力にまかせて、徹頭徹尾独力で作りあげたものである。然るが故にまた至らざる部分や欠点もあると思う。私は著者とともに斯界の諸先輩の御叱正を懇願するものである。

1990年11月3日　於東京西郊つくし野

今　冨　正　巳
（東洋大学教授）

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.

序

中国語の学習がある程度まで進み，中国の新聞雑誌・文学作品また実際の会話などの生の中国語に接触するようになると，現行の中国語辞典類では解決出来ないようなことばがたくさんあることに気づくはずである。例えば方言，俗語，特殊な慣用表現，成語，略語などがそれであろう。その中でも特に略語は，辞典に収録されないことばの代表的存在であり，時間の経過とともに次々と新しいものが生まれてくるという性質を備えており，中国語学習者また中国語教育に携わる者にとってたいへん厄介な存在となっている。本辞典の編纂を決意したのは，ひとつにはこのような現状に対処するためである。

ひとくちに略語と言ってもその内容はさまざまで，現在のところ統一的な見解が打ち出されておらず，混沌とした状態が続いている。この問題は成語とは何かという問いの性質と同一のものであり，それに厳密な定義を与えることはたいへん難しい。問題の本質を掘り下げて行くためには，まずその実情を調査することから始めなければなるまい。略語と一般的複合語の境界線をどこに求めるか，略語が構成される場合，その語素（形態素）の取捨選択はどのような法則によっているか，連語が略語形になった場合に，文法的機能の上でどのような変化が認められるか，また略語の発生が語彙体系にどのような影響を与えているかなど，問題の本質を見極めるために着手しなければならない課題は非常に多い（これらの問題に関しては，これまで発表した関係論文を巻末に収録すると同時に，凡例において現時点における著者の見解を示すことにした［凡例〈2　本辞典における略語〉及び巻末収録論文を参照］）。この意味において，本辞典は現代中国語における略語研究及びそれに関連する造語法や形態素研究のための資料を目指したものであり，今後さらに発展させて行かなければならない性格のものである。

不備な点も多々あることと思われるが，これらの点については，読者各位の忌憚なき御批判を頂ければ幸いである。

本辞典の執筆にあたり，片山博美・国谷知史・石井光夫三氏にはそれぞれの専門分野における項目についてご校閲をお願いし，貴重なご意見を頂いた。ここに記して感謝の意を表する。

最後に，私のような“小字輩”にこの辞典編纂を依頼してくださり，多大な援助をしてくださった安井正幸社長，東方書店の編集部の皆様に厚く御礼を申し上げたい。

1990年10月１日

編　　者

凡　例

1 親字と見出し語

1－1 本辞典に収録されている項目は，親字と見出し語の二種類に分かれる．親字は比較的大きな字体を用い，見出し語は【　　】の中に収めた．

職 **zhí**（親字）
【職大】**zhídà**〔名〕(見出し語)
【職代会】**zhídàihuì**〔名〕(　〃　)
【職校】**zhíxiào**〔名〕(　〃　)

1－2 **親字**；親字の部分は，本辞典に収録される一部の項目[注]を除いた全ての見出し語の語素について分析検討を加え，略語を構成する語素(morpheme)が現れる個々の状況を帰納整理したものである．

[注] 一部の項目とは，数字を用いて構成する“三好”“四化”や意味的な帰納によって構成される“五毒”“三大障碍”の類．及び並列する連語の共通する部分をひとまとめにして構成した“工农业”“中小型”“中西药”などの略語をさす．これらは連語的な性質を持つものであり，語素の問題とは直接関係をもたない．

例えば親字“工❶”においては，語素“工”が“工业”の意味で現れる個々の状況を整理してあり，親字“腿”では，語素“腿”が“火腿”の意味で現れる状況を整理してある．

工 **gōng** ❶* “工业 gōngyè”の短縮．工業．¶兵～／兵器工業｜化～／化学工業｜军～／軍事工業｜轻～／軽工業｜森～／林工業｜支～／工業を支持する｜兵～部／兵器工業省｜科～办／科学工業弁公室…

腿 **tuǐ** “火腿 huǒtuǐ”の短縮．[中国式の] ハム．¶北～／北方産のハム｜金～／金華ハム｜南～／華南産のハム｜宣～／宣威ハム｜云～／雲南産ハムの総称．

これらを整理記述する際，趙元任・楊聯陞合編《國語字典》(Harvard University Press, 1947年).《現代汉语词典》(北京・商務印書館，1983年第2版）などをはじめ，その他内外の工具書を参照したが，意味項目のまとめかた，用例の配列方法などは，筆者が考案したものである.

なお親字によっては全く語釈を付けていないものがあるが，これは語素の省略と残留という過程と関わりのない語（以下このような単音節語・複音節語を総称して一般語と呼ぶ）である．例えば“错”は単音節語であり，親字“错”においては，その語義を収録していない.

错 **cuò**

【错别字】**cuò bié zì** ‖ “错字和别字 cuòzì hé biézì”の短縮.
誤字であて字.

但し，略語構成過程において残留する語素が単語としての機能を持つ場合はその語義を収録するとともに品詞（5 品詞を参照）を付した.“肝❷”参照.

肝 **gān** 〈医〉❶“肝炎 gānyán”の短縮．肝炎．¶甲～／A型肝炎｜乙～／B型肝炎｜急重～／急性重症肝炎｜慢迁～／慢性持続性肝炎｜慢乙～／慢性B型肝炎.
❷〔名〕“肝脏 gānzàng”の短縮．肝臓．¶～功.

1－3 **配列について**：親字・項目の配列順序は原則として《現代汉语词典》(商務印書館，1983年第2版）にならい，漢語ピンイン方式に依っている．同音で声調が同じ親字は，画数の少ないものから多いものへと配列した．また親字に破読がある場合は，それぞれを親字として立項し，親字の最後に☞の記号を加えて関連づけた.

1－4 **索引について**：索引は筆画索引及びピンイン音節索引の二種類を付した.

2 本辞典における略語

略語とは，単語や連語，時にはひと区切りの文などを語素や単語の省略と残留，語素の入れ替え，音節の省略，また意味的な帰納や数字による概括などの諸過程を通じて構成される言語単位をいう．それらはその構成形式と特徴に従って，以下(1)から(9)のタイプに分類される.

(1) **語素省略圧縮型**

連語内の複合語（時に連語形式の単語）における語素を一定の方式により省略残留させ，残留した語素を圧縮接合させ新しい語形を構成するタイプをいう［注］．

これはさまざまな略語の構成方法がある中で，最も生産力のある構成形式であり，絶え間なく生まれてくる「新語」はこれに由来することが多い．

［注］その詳細については巻末収録論文那須1987.8及び那須1987.11を参照．

語素省略圧縮型はその略語形が一般的複合語と同一の構造をとるか，連語的性質をもつかによって①②に区別される．

①一般的複合語と同一の構造になるもの：これらは造語形式及び語素の結合形式という点で，一般的な複合語と同一の構造をとる．このため，時として両者の境界線は不明確になる．略語形は一般にそのもととなる連語（以下これを原形と呼ぶ）に還元可能であり，また略語形とその原形は一般に併用される．

高级干部→高干	劳动模范→劳模
彩色胶卷→彩卷	工业贷款→工贷
农民协会→农协	小型巴士→小巴
抗日战争→抗战	土地改革→土改
参加比赛→参赛	展览销售→展销
报告请示→报请	调解处理→调处
限制报考→限报	限制生产→限产

②略語形が一般的連語ａ）また連語的性格を持つものｂ）：

ａ）(1)の①と同様，略語形は原形に還元可能であり，両者は併用される．

ｂ）原形への還元は可能であるが，実際の文脈の中ではもっぱら略語形のみが用いられ，原形が併用されることは少ない．

ａ）市人民委员会→市人委	ｂ）外销转内销→外转内
国家教育委员会→国家教委	由工人转为干部→工转干
国际足球联盟→国际足联	按照需要安排生产→按需定产
中国农业银行→中国农行	重视理科轻视文科→重理轻文
德育、智育、体育→德智体	以进口促进销售→以进促销

(2) **語素接合型**

略語としての語素が一般的語素と直接結合して複合語を構成するタイプ．これ

らは(1)の①と同様，一般的複合語と同一の構造をとるものである．

排坛	科盲	敌机	机库	绿肥	干籍
二胡	早点	影坛	台报	美元	江轮

これらの略語形は一般に原形に還元することはできない．例えば“排坛”“科盲”“美元”などは“排球坛”“科学盲”“美国元”の形に還元できない．

この種の略語は，略語としての語素が一般的な語基として熟した後に生まれるものと考えられる．

(3) 単語省略型

単語の省略と残留という過程を経て構成される略語をいう．それらはその構成形式に従って，以下の①②③に区別される．以下。印は省略部分．

①総称名省略型：“正”（被修飾語）を省略して，属性を表す“偏”（修飾語）を残留させるもの：略語形は原形に還元可能であり，略語形は原形と併用される．

长途电话→长途　　标点符号→标点
黑白电视→黑白　　全优工程→全优
无轨汽车→无轨　　师范学校→师范
集体所有制→集体　　全民所有制→全民

②修飾語省略型：“偏”（修飾語）を省略して，“正”（被修飾語）を残留させるもの：略語形は原形に還元可能であり，略語形は原形と併用される．

人民公社→公社
政治指导员→指导员
政治指挥员→指挥员
中国人民解放军→解放军
关于建国以来党的若干历史问题的决议→决议

③賓語省略型：述賓連語において賓語を省略し，動詞を残留させるタイプをいう．これらはその機能の面から見れば単音節の動詞と全くかわるところがない．略語形と原形は併用される．

拍马屁→拍　　贫嘴→贫　　吹牛皮→吹

(4) **単語・語素省略併用型**：(1)と(3)の構成形式を併用するタイプ．略語形が一般的複合語と同一の構造をとるか，連語的性質を持つかによりそれぞれ①②に区分される．

以下の例は単語の省略と語素の省略という二つの過程を経て構成されたものである．◦印は省略部分．

①略語形が(1)の①と同じになるもの：略語形は原形に還元でき，略語形と原形は併用される．

职工业余大学→职工大学→职大
政治思想教育→政治教育→政教
抗日军政大学→抗日大学→抗大
政治协商会议→政治协商→政协
中等专科学校→中等专业→中专
共产主义青年团→共青团
控制集团购买力办公室→控制办公室→控办
中华全国总工会→全国总工会→全总

②略語形が(1)の②ｂ）と同様に連語的な性質を持つもの：略語形は原形に還元できるが，略語形と原形が併用されることは少ない．

由农业户口转为非农业户口→农转非
以行政手段代替企业管理→以政代企
从国外引进先进技术和资金，与内地企业联合→外引内联
以罚款来代替刑罚制裁→以罚代刑

(5) **重複要素省略形**

並列連語内における重複する語素あるいは単語の一方を省略して，それを圧縮するタイプをいう．◦印は省略部分．

工业商业→工商业
中学小学→中小学
原料材料→原材料
中型小型→中小型
土产特产→土特产
初中高中→初高中
零件部件→零部件
中药西药→中西药
指挥员战斗员→指战员
贫农、下中农→贫下中农
轻工业重工业→轻重工业
党组织团组织→党团组织

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.

略語形は原形に還元可能であり，略語形と原形は併用される．

(6) 簡略代用型

簡略代用型とは複音節で表される概念を，別の一音節に置き換えて表すタイプをいう．以下は簡略代用型に属するものである．

①地名の別称：二音節の地名を，別の一音節の別称に置き換えるタイプ．鉄道路線名や地方劇名などはこの方式によってつくられることが多い．

上海→沪　山东→鲁　广州→穗　河南→豫　江西→赣　湖北→鄂
京沪铁路　皖赣铁路　沪剧

②“姓代名”（人名の姓による置き換え）：複音節の人名のうち，名の部分を省略して，姓のみでその人名を表すもの．京劇の流派名・歴史的人物名などの略称はこの方式によってつくられることが多い．

马派　程派　叶派　陶研　刘邓大军　陈粟大军　班马

③語素の代用：複音節で表される概念を，単音節で置き換えて新語形を構成するタイプ．このタイプは科学技術用語などによく見られる[注]．

远距离控制→遥控　　远距离感测→遥测

[注] これに関しては李熙宗・孙莲芬《略语手册》9頁を参照

(7) 数字意味帰納型

数詞や意味的帰納という手段を用いて構成する略語をいう．これらその特徴に従って①数字帰納型と②意味抽出型の二つに区分される．

①数字帰納型：連語における共通する語あるいは語素を数字で帰納するタイプをいう．“三包”は共通する語“包”を数字によってまとめたものである．。印は共通する語あるいは語素．

包修、包换、包退→三包
德育、智育、体育→三育
同吃、同住、同劳动→三同
有理想、有道德、有文化、有纪律→四有
农业现代化、工业现代化、科学技术现代化和国防现代化→四个现代化

②意味抽出型：連語に共通する意味的特徴を抽出し，それを他の語に置き換えて新語形をつくるタイプ．例えば“四害”は“老鼠”“麻雀”“苍蝇”“蚊子”における「人に害を与える」という意味的特徴を抽出し，それを“害”という語素に置き換え，これに“四”を加えて構成したものである．

老鼠、麻雀、苍蝇、蚊子→四害
帝国主义、封建主义、官僚主义→三大敌人
蝎、蛇、蜈蚣、壁虎、蟾蜍→五毒
缝纫机、自行车、手表和收音机→三转一响

(8) **音節省略型**

外来語における音節を省略して，単音節または二音節の形にするタイプをいう．

奥斯特→奥　赫兹→赫　特斯拉→特　安培→安
葡萄酒→葡酒　中型巴士→中巴　普罗列达里亚→普罗

2－1 略語と一般語の境界線について

何を基準として略語といい，何を基準として一般語というのか．本辞典は以下Ⅰ・Ⅱの基準によって両者を区別した．

Ⅰ 2(本辞典における略語)における諸形式によって構成されるものを略語とし，これらの諸形式に該当しないものを一般語とした．

Ⅱ 構成される略語形が一般的複合語と同一の構造をとる(1)①，(2)，(4)①及び(3)③における単音節動詞については，以下二段階の基準を設定することにより，これを処理した．

1) 問題となる複合語における複数の語素のうち，何れかの語素が形式の上で粘着（bound form）であると同時に，それがその語素固有の意味ではなく，特定の合成語の意味を表すものを略語とした．

例えば“初中”における“初”と“中”は bound form であると同時に，“初级”と“中学”という複合語の意味を表しており，これらの意味は“初”や“中”における語素固有の意味ではない．

なおこの基準に合致しないものについては2)の基準を採用した．

2) 問題となる複合語に対して，明確な原形の連語があり，実際の文脈中においてもその語形と原形が併用されるものを略語，そうでないものを一般語とした．

“推拖”における“推”と“拖”はそれぞれ語素固有の意味を表しており，また形式の上からみても両者は自由（free form)であり，この点からすれば 1)の基

準を当てはめられない．しかし“推拖”は実際の文脈において“推诿拖拉”の原形と併用されるので，これを略語とした．

2－2 本辞典に収録される略語は，主に中国の新聞・雑誌・文学作品などから採集したもので，また一部にはラジオテレビ放送や日常会話などから採集したものも含まれる．8－3 主要引用文献参照．

2－3 古典語においてすでに形成された略語も必要に応じて収録した．

“古稀 gǔxī”“五古 wǔ gǔ”“七律 qīlǜ”“沧桑 cāngsāng”

2－4 一般的に使用される略語以外に専門用語も多数収録した．10 専門用語ラベル一覧表参照．

“马传贫 mǎchuánpín”“肝穿 gānchuān”“胸透 xiōngtòu”“室缺 shìquē”
“盲降 mángjiàng”“全陪 quánpéi”“地陪 dìpéi”“三接头 sānjiētóu”

2－5 台湾で使用される略語も若干収録した．その場合（台湾）の表示を付し，これを示した．9 スピーチレベル一覧参照．

“国中 guózhōng”“国小 guóxiǎo”“资讯 zīxùn”“联考 liánkǎo”
“经建 jīngjiàn”“公保 gōngbǎo”“空少 kōngshào”

3 発音

3－1 発音は，ピンイン方式を採用し《现代汉语词典》（北京・商務印書館，1983年第2版）《新华字典》（北京・商務印書館，1988年新訂6版）《普通话异读词审音表》（普通话审音委员会编，1985年12月修訂）などに依拠して注記した．

3－2 **声調変化**がある場合は，変化しないもとのままの声調で表記した．

3－3 **見出し語のピンインの分写と連写について**：語素の結合形式が複合語と同じ構造になるものについては連写，連語または連語と単語の中間的なものに関しては分写という形で処理した．ただし連語内に出現する一般語のピンイン表記に関しては《现代汉语词典》に基づき連写で表記した．

【统招】**tǒngzhāo**（連写）
【一国两制】**yī guó liǎng zhì**（分写）
【一打三反运动】**yī dǎ sān fǎn yùndòng**（“运动”は一般語として連写）

3－4 **軽声**；軽声は二段階に分けて処理した．なおその決定に際しては3－1の資料に加えて《普通话轻声词汇编》（孙修章，上海教育出版社，1985年）《汉语拼音词汇》（増訂稿，文字改革出版社，1964年）なども参照した．

①常に軽声で発音される音節には声調符号を付さず，残疾 cánji 部分 bùfen のように処理した．

②場合により軽声になるものについてはその音節の前に・を付すと同時に，声調符号を加えた．

关系 guān·xì　葡萄 pú·táo

3−5 **r 化音**は，ピンインの後に r を付し，実際の音変化は示さない．また r 化してもしなくてもよいものに関しては（ ）で括った．

【彩卷（儿）】**cǎijuǎn(r)**（r 化省略可能）

3−6 **固有名詞**は，地名，国名のピンインについては，頭文字を大文字で表記し，姓名については，姓の頭文字と名の頭文字を大文字とした．

【毛选】**Máoxuǎn**〔名〕〈書名〉"《毛泽东选集》Máo Zédōng xuǎnjí" の短縮．…

4 語釈と用例

4−1 略語の原形である連語は親字または見出し語の直後に“ ”を用いて示した．

【中专】**zhōngzhuān**〔名〕"中等专业学校 zhōngděng zhuānyè xuéxiào" の短縮．

なお(2)の語素接合型の略語に関しては下記のように処理した．

【排坛】**páitán**〔名〕バレーボール界．
【科盲】**kēmáng**〔名〕科学音痴．

4−2 **分野別ラベル**：本辞典では専門用語に対して，その所属分野または学科を〈 〉内に略語で示した．専門語ラベルは略語の原形の前に置いてある．（10 専門用語ラベル一覧参照）．なお親字・見出し語がそれ自体所属・分野・学科としての意味が明確な物に関しては，これを付さない．

4−3 **スピーチレベル**：本辞典は，最新の略語を収録することに努めたが，中には語形がゆれている語，使用範囲が限られている語もある．これらの略語に対してはスピーチレベルを付し，その性質及び使用範囲を示した．スピーチレベルは（ ）で表記した（9 スピーチレベル一覧参照）．また語形の揺れている語あるいは一つの連語に複数の略語形が存在している場合は語形の表記を用いて注意を促した．

4−4 本辞典の語釈は略語の解釈に重点を置いている．したがって一般的，基本的語義を収録していない場合がある．

【人流】**rénliú**〔名〕“人工流产 réngōng liúchǎn”の短縮．人口妊娠中絶．中絶．…

“人流”の語形には「人の流れ」の意味がある．しかし本辞典では，一般的語義として収録しなかった．

4－5　親字及び見出し語が多義［注］になる場合，その意味項目は数字によって分けた．

［注］ここでの多義とは，多くの場合，同音同形異義語素もしくは同音同形語を再解釈したものであり，一般に言われる多義と異なる場合がその大勢を占める．

親字：“文 wén”以下には1から13までの語義がおさめられているが，これらの語義間には語源的，意味的関連は希薄であり，これらは単に略語を構成する語素を一か所に集めて語義分類を加え配列したものに過ぎない．

見出し語：“中转 zhōngzhuǎn”における1と2の語義の間には語源的また意味的な関連が認められず，単に略語として構成された語形が偶然に一致したものに過ぎない．

4－6　**用例**は¶の後に置き，用例中は親字または見出し語を示す記号として～を用いた．なお用例の中で圜をともなうものは略語の原形の例であり，その際～を使わず原文のまま表記し，その部分はゴチックの字体を使用して強調した．

4－7　**語源**：語釈中：の後に語源に関する情報を伴うものがある．例えば日語，梵語（その他）などを伴う項目は，その語が日本語または梵語に由来するものであることを示す．

4－8　**挙例について**：解放以前もしくは建国直後の文献から例を引用する場合，字体は全て簡体字に改めた．ただし標点符号や状語をつくる場合の“的”などは原文のままとした．また引用した例文に省略部分がある場合は…を使って省略部分があることを表す．

4－9　**出典**は〔　〕の中に示した．頻出する文献に関しては略称（8－1　文献略称一覧参照）を用い，その他はフルネームで表記した．

4－10　複数の例を引用する場合，常用される連語の例を先頭に，出典つきの例をあげた．なお出典を伴う例は，時間的に新しいものから古いものの順に配列した．

4－11　**図版・囲み記事について**：本辞典は語釈の補足あるいは用例の提示のために図版・囲み記事を収録した．詳細は12 図版・囲み記事一覧参照．

5 品詞

辞典を編纂するからには，当然その編纂方針と平行してその文法体系を設定しなければならない．例えば故倉石武四郎教授『中国語辞典』（岩波書店，1963）また北京語言学院編『簡明中日辞典』（北京商務印書館，1985）などはそれぞれの文法体系を設定した上で，一冊の辞典としての体裁をつくりあげている．

しかしながら本辞典は，上記のような全面的な文法体系を備えた一般的な辞典とは性格を異にすることから［注］，文法体系はあえて設定していない．

［注］例えば本辞典は指示代詞や接続詞・介詞・構造助詞・語気助詞などといった虚詞の類，また一般的語彙を収録しておらず，全面的かつ体系的に中国語を記述するという性格を持ち得ない．

5－1　品詞［注］の認定は，現代中国語を基準として，文法的機能及び語素結合形式の二つの点に根拠を求めた．

［注］品詞の定義については，本辞典は以下の文献に負うところが多いので，ここに注記する．

朱德熙《语法讲义》商务印书馆 1982

刘月华・潘文娱・故铧《实用现代汉语语法》外语教学与研究出版社 1983

5－2　語素と粘着語；親字において，それが単語として機能しないものには品詞を付さない［注］．

［注］見出し語において品詞を伴わないものがあるが，これは連語としたものあるいは(粘着)の表記を加えたものである．（後述）

語素は自由語素（free morpheme）と粘着語素（bound morpheme）の二つに区分し，後者に関しては二つのレベルを設定した［注］．

［注］語義の先頭に＊の印を伴うもの参照．

親字：“工”❶における“工业”（工業）の語義は，それ自体で独立しない．

この種の語素は，粘着語素であり，本辞典の親字において品詞を伴わない語義は全てこれに属する．以下はその参照例であるが，いずれも（　）内に記した意味では単語として機能しない．

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.